北近畿の中小企業のための情報セキュリティー相談室

㈱マルテツ（福知山市）代表取締役社長
個人情報保護士／情報セキュリティアドバイザー 原田正大

㉒ 2017年のセキュリティー事件 ランサムウェアの認知広がる

マカフィー㈱は昨年12月11日、日本国内の経営層や情報システム部門などのビジネスパーソンを対象に「2017年のセキュリティー事件に関する意識調査」を実施し、その結果を基に「2017年の10大セキュリティー事件」を発表した。同社は主な見解として次のように述べている。

●世界中のあらゆる組織がインターネットに接続しており、WannaCryのように海外で発生した事件であっても、瞬く間に日本にも影響を及ぼすようになった。

このランキングは、テレビや新聞などで大きく報道されたこともあり、認知度は高いものが多い。

●若年層によるサイバー犯罪の摘発は、サイバー犯罪が以前のように専門家のみが実行できるだけでなく、場所や年齢を問わず誰でも実行できる時代になっており、今後もその流れが加速する。

しかしながら、当然表には出てこないサイバー犯罪は日常的に発生しており、18年はIoT（モノのインターネット）などサイバー攻撃の対象になるものも増加する可能性が高く、ますます注意が必要であろう。

日常的に迫る脅威に対し、意識を持って対策することがますます大切である。

2017年 10大セキュリティー事件ランキング

順位	セキュリティー事件	発生時期	認知度
1	ランサムウェア「WannaCry／WannaCrypt（ワナクライ）」の大規模な攻撃が世界中で確認され国内でも製造や運輸などの業界で被害が発生	2017年5月	36.7%
2	Amazonをかたるフィッシングメール／「Amazon」の利用者を狙ったフィッシング攻撃が発生／大手宅配業者の商品の発送や宅配便のお知らせを装った偽メールが増加	2016年11月～2017年1月	36.2%
3	無線LANの暗号化規格であるWPA2の脆弱性（KRACK／KRACKs）が発見される	2017年10月	32.8%
4	米Yahoo!で、不正アクセスにより最終的に30億人分以上のユーザー個人情報が漏えいしていたことが判明	2017年10月	32.3%
5	ランサムウェアや遠隔操作ウイルスの作成、フリーマーケットアプリへのマルウェア関連情報の出品など、中高生によるサイバー犯罪で逮捕者が続出	2017年6～9月	27.2%
6	Appleを装い、アカウント情報を詐取するフィッシング攻撃が確認される	2017年2月	26.0%
7	女優や女性アイドルなどの芸能人が画像を保存するなどしていたインターネットサーバーに不正にログインしたとして無職の男を書類送検	2017年4月	23.0%
8	防衛省と自衛隊の情報基盤がサイバー攻撃を受けたとの報道	2016年11月	20.4%
9	女性タレントや女性アイドルらの電子メールサービスなどに不正接続したとして大手新聞社の社員を逮捕	2016年11月	19.3%
10	日本マクドナルドのシステムがマルウェアに感染し、外部に向けて大量のパケットを発信して通信を圧迫、商品購入時のポイントサービスが利用不能に	2017年6月	18.8%